

# 日田街道と国道3号線



大正時代の日田街道 (赤司岩雄氏提供)



昭和50年代の日田街道 (赤司岩雄氏提供)



現在の日田街道 (令和4年撮影)

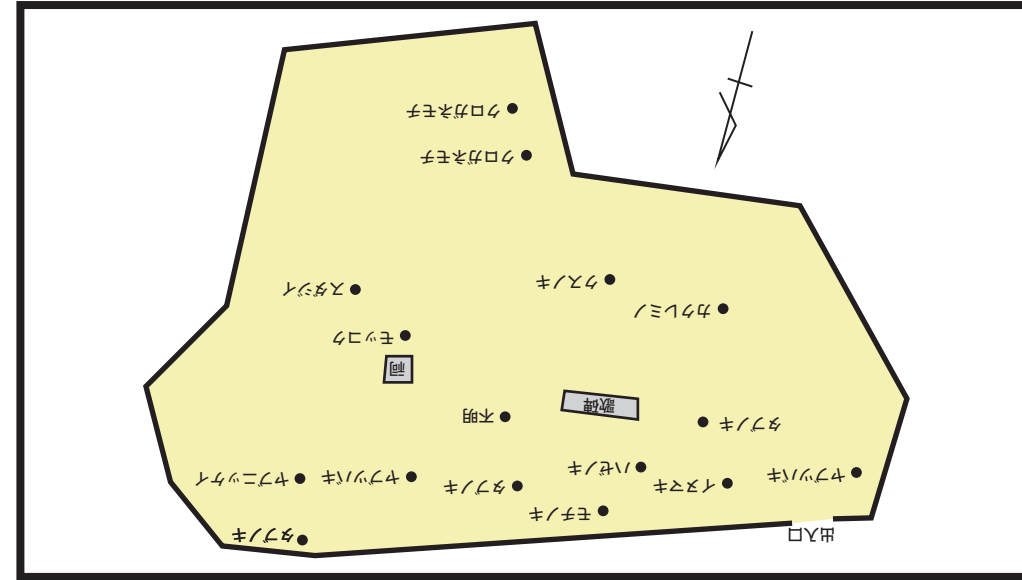
上段の写真は大正時代の日田街道です。画面左の建物は雑餉隈郵便局で、道幅も現在に比べると狭いことが分かります。

昭和6年に国道3号線(現在の県道112号線)建設工事のため道幅が拡張されたことにより局舎は解体されました。

また下段の写真の右側には、郡境界標という江戸時代に建てられた御笠郡と那珂郡との境界を示す石柱も写っています。

郡境界標は、保存のため、現在は心のふるさと館に展示され、跡地には場所を明示するための石柱と説明板が設置されています。

御笠の森の樹生状況 (令和6年3月4日時点)



御笠の森は、現在でも様々な木々が生い茂っています。タブノキは、4~6月に黄緑色の花が咲く樹木で、実は絞取り線香の材料にもなります。クロナギモチは5~6月に薄紫色の花が咲く樹木で、秋に赤い実をつけます。また「苦勞がなくなると好む」として縁起のいい木のため、庭に植える木として好まれています。

## 御笠の森の植生

# 各文化財へのアクセス

Table with 2 columns: Location and Access (JR/West Rail). Locations include Shinikawa, Nitta no Mori, and various landmarks.

お問い合わせ先: 心のふるさと館 文化財担当 ☎092-558-2209 (平日午前8時30分~午後5時)

大伴宿禰百代の歌碑



御笠の森の中には、山田村の河波定吉が天保11年(1840)11月4日に建立した神功皇后社の石の祠と、明治百年を記念して昭和44年(1969)に大野町が建てた大幸大監大伴宿禰百代の万葉歌碑があり、遠い昔をしのぶことができます。

## 大幸大監大伴宿禰百代が詠んだ「恋の歌」

## 大野城市の文化財 第54集

# 御笠の森と日田街道をたどる



発行: 大野城市



大野城市内には、御笠の森に関連する古い地名が多く残っています。神功皇后の笠が脱げたところを「笠抜」、笠が高い楠の木にひっかかり、神様をお願いして取っていただいたために舞を奉納した場所を「舞田」と呼ぶようになりました。

## 御笠の森の地名

# 日田街道とは?

日田街道とは、江戸時代の徳川幕府による九州統治の拠点「永山布政所」(日田)を基点・終点とする街道の総称です。

特に博多に通じる街道は、北部九州の大動脈として、多くの人やモノ、情報が行き交いました。

また大野城市内の日田街道は、県道112号線(旧国道3号線)に沿うように、東大井・白木原・瓦田・筒井・山田・雑餉隈を通ります。

中でも雑餉隈は、「間の宿」として、多くの旅籠や茶店が立ち並び、大変なにぎわいをみせていました。



大野城市内の日田街道 (『筑前国続風土記附録 御笠森図』平岡邦幸氏提供)

POINT 日田街道には様々な呼び方があります。博多から日田に通じる街道を「日田街道」「日田往還」と呼び、反対に日田から博多に通じる街道を「博多街道」「博多往還」と呼んでいました。

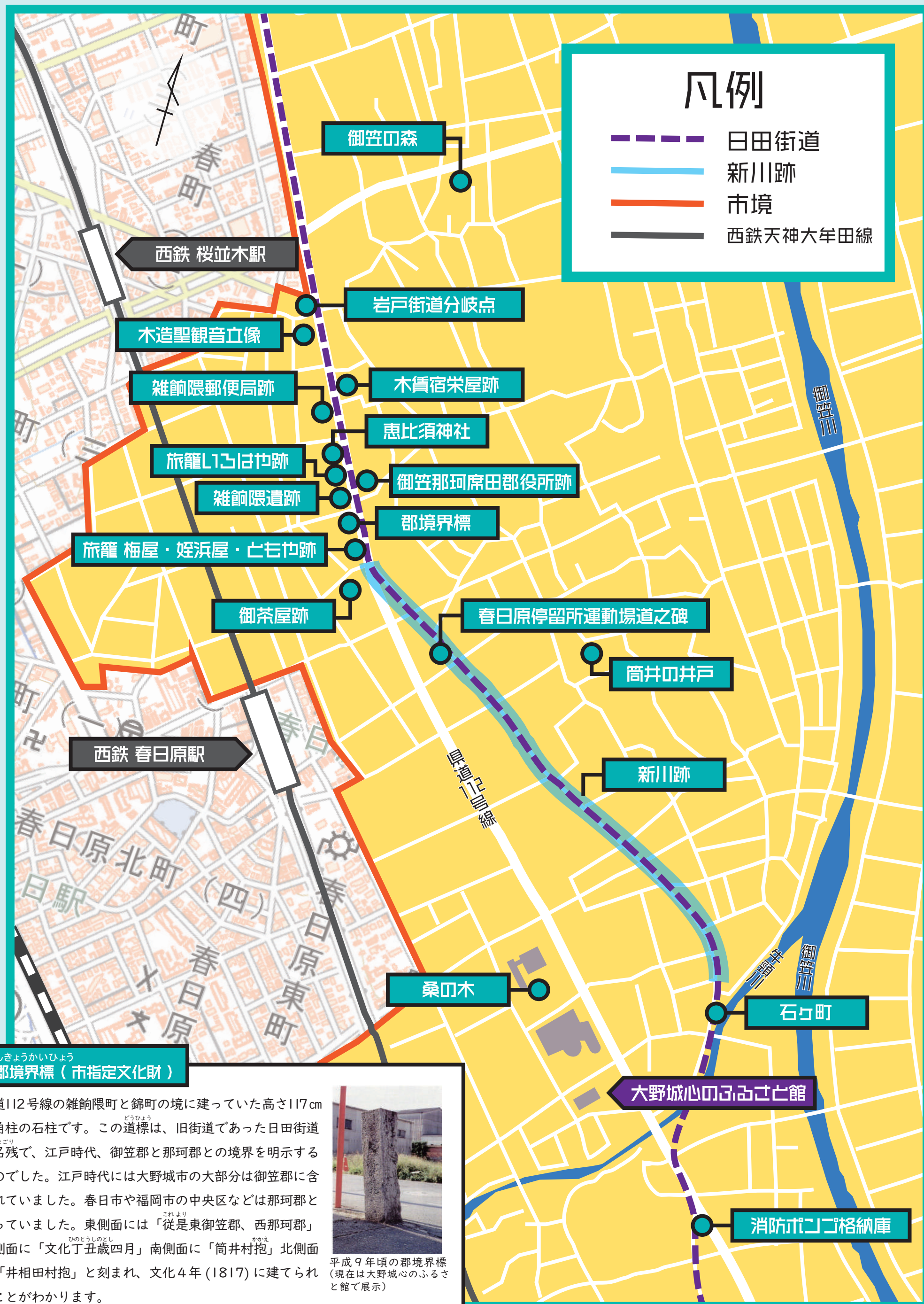
現存の御笠の森



日本最古の歴史書である『日本書紀』や江戸時代の地誌『筑前国続風土記』には、「仲哀天皇のお后である神功皇后が、侍持田(朝倉市秋月野鳥)に住む羽白熊鷹という豪族を従わせようとして榎日の宮(福岡市東区香椎)から松峽宮(朝倉郡筑前町)へ向かわれている途中、突然つじい風が起り皇后の被らされていた笠が吹き飛ばされて、この森の木にひっかかったため、御笠の森というようになった。そしてこの地名も「御笠」(御笠郡)と名付けられた。」と書かれています。

## 御笠の森とは?

# 日田街道周辺の文化財 MAP



**くわ き 桑の木**

現在、大野城市役所がある場所は、かつて福岡県繭検定所や養蚕試験場があり、福岡県下の養蚕指導の拠点となっていました。これを記念し、蚕の餌である桑の木が1本植えられています。

福岡県繭検定所 (赤司道雄氏提供)

**いしがまち 石ヶ町**

牛頭川と日田街道に沿ったところにあった町です。蹄鉄屋やうどん屋、駄菓子屋などがあり、街道を行き交う人の多くが休息をとっていました。

石ヶ町のセンダンの木 (大野城市史資料館より引用)

**しんかわあと 新川跡**

日田街道の西側に沿うように造られた運河跡です。福岡藩が年貢米輸送のために寛延3年(1751)に開通させましたが、水量が少ないため約10年で運航を停止しました。多くの場所は埋め戻されましたが、新川緑地公園あたり(約800m)は昭和50年代まで残されており、昭和62年(1987)に遊歩道として整備を行いました。

昭和50年頃の新川

**つつい いど 筒井の井戸 (県指定文化財)**

旧筒井村の共同井戸です。江戸時代の地誌『筑前国続風土記』の中に「村中に筒井とて清水あり。木の筒を以て井幹とす。是故に村の名をも筒井と云也。其水極めて清冽にして、大旱といへとも涸れず。常に筒の上に湧上る。只冬至の夜許水出ず」と記載があり、勢いよく清らかな水が湧き出ている様子が伝わります。またこの地誌には、木の筒の井戸枠と書かれていますが、現在の井戸枠は花崗岩をくり抜いたもので、高さ約80cmの筒が2段積まれています。

井戸の調査の様子 (昭和45年)

**かすがばるていりゅうじょ・うんどうじょうどうのひ 春日原停留所・運動場道之碑**

大正13年(1924)に開通した九州鉄道(現在の西日本鉄道)の春日原停留所へ向かう道路の起点です。雑餉隈在住の草壁氏から土地の寄贈と工事費用の寄付金を受け道路を新設しました。駅周辺は原野を切り開き、野球場・ラグビー場・テニスコートなどを備えた総合運動場が造られました。しかし、昭和25年(1950)に平和台球場が完成すると運動場は不要となり、昭和30年(1955)に全面撤去され現在は住宅地となりました。

大正13年頃の航空写真 (『春日原史』より引用)

**おちややあと 御茶屋跡**

大名が参勤交代や領地巡視の際に休憩宿泊する施設です。安永年間(1772~1781)に筒井村庄屋善六(六代目)が藩主黒田治之に献上しました。平成8年(1996)に解体され、現在は門柱だけが残っています。

解体前の御茶屋跡 (赤司道雄氏提供)

**はたご うめや めいのはまや あと 旅籠 梅屋・姪浜屋・七右衛門跡**

3軒の元旅籠が軒を連ねていましたが、昭和50年(1975)頃に解体されました。

梅屋の徳利

解体前の梅屋・姪浜屋・七右衛門 (赤司道雄氏提供)

**ぐんきょうかいひょう 郡境界標 (市指定文化財)**

県道112号線の雑餉隈町と錦町の境に建てていた高さ117cmの角柱の石柱です。この道標は、旧街道であった日田街道の名残で、江戸時代、御笠郡と那珂郡との境界を示すものでした。江戸時代には大野城市の大部分は御笠郡に含まれていました。春日市や福岡市の中央区などは那珂郡となっていました。東側面には「従是東御笠郡、西那珂郡」西側面に「文化丁丑歳四月」南側面に「筒井村抱」北側面に「井相田村抱」と刻まれ、文化4年(1817)に建てられたことがわかります。

平成9年頃の郡境界標 (現在は大野城心のふくむさむ館で展示)

**ざっしよのくまいせき 雑餉隈遺跡**

発掘調査で、江戸時代の磁器(有田焼・伊万里焼)がたくさん出土しました。出土した遺物の中でも、ヨーロッパ向けの輸出用の皿が目立っています。NVOC模様の「VOC」とは「オランダ東インド会社」のことで、このような焼物は、長崎の出島を経由して主にヨーロッパへ輸出するために特注で作られたものです。

NVOC 模様皿

**旅籠いろはや跡**

雑餉隈にあった7軒の旅籠の1つです。その中で最も趣のある旅籠であったといわれますが詳しい文献はなく、昭和49年(1974)に解体されました。

解体前のいろはや (赤司道雄氏提供)

**えびすしんじや 恵比須神社**

事代主命(恵比須神:商いの神)と火産靈神(愛宕神:防火の神)を祀る神社です。江戸時代から戦前まで十日恵比須(12月10日~12日)でにぎわっていました。

恵比須神社

**ざっしよのくまゆらびんきょくあと 雑餉隈郵便局跡**

明治11年(1878)「筑前国雑餉郵便局」として開局しました。現在の博多南郵便局の前身で、32ヶ村(概ね現在の福岡市博多区・南区の一部・春日市・大野城市に相当)を管轄していました。当時は初代局長である城戸半七の自宅を利用していました。

雑餉隈郵便局として利用された城戸家 (赤司道雄氏提供)

**もく ぞうしよかんのんりゅうじょう 木造聖観音立像 (県指定文化財)**

県道112号線の山田4丁目交差点から雑餉隈町方向に少し入ったところにお堂があり、その中に聖観音立像が祀られています。お堂はもともと日田街道に面した東向きに建てられていましたが、昭和7年(1932)の国道3号線建設工事の時に、西向きに建て替えられました。観音像は応永21年(1414)室町時代に寄木造で作られたもので、全高は100.5cmあります。

木造聖観音立像

**いわし かいどう なかみちどお さがだち ぶんきてん 岩戸街道(中道通り・佐貫通り)分岐点**

岩戸街道とは、日田街道から井尻・高宮・平尾などを経由して福岡城下につながる街道です。福岡藩主が長崎勤番の際などに利用しました。

**きちんやどさかえやあと 木賃宿栄屋跡**

間の宿にあった7軒の旅籠の1つです。木賃の「木」とは燃料である「薪」のことで、燃料代程度もしくは相応の宿賃で宿泊できる安価な宿泊所として、旅芸人や行商人などににぎわいました。

解体前の栄屋 (赤司道雄氏提供)

**みかさな かむしろだぐんやくしよあと 御笠那珂珂席田郡役所跡**

御笠郡(現在の太宰府市)、那珂郡(現在の那珂川市・春日市・福岡市博多区・南区・東区の一部)、席田郡(現在の福岡市博多区の一部)の郡役所です。明治11年(1878)に設置されたと言われています。明治29年(1896)に筑紫郡役所に改称し、明治32年(1899)に那珂村麦野(現在の南福岡駅周辺)に移転しました。

**しょうぼう かくのう こ 消防ポンゴ格納庫**

大正末期に白木原に建てられた赤煉瓦造りの第二部消防ポンプ格納庫が、平成10年7月に街路拡張に伴って現地へ移設されました。貴重な近代建築ということで、市民の手によって解体され、当時の赤レンガを一部使用して建てられました。

現在の格納庫